

KubeCon EU 2024登壇について

2024年04月23日

富士通株式会社 先端技術開発本部

園田雅崇

本日お話する内容



- ○発表した内容の簡単な紹介
- ○登壇して感じたことなど
 - ○所感
 - ○登壇して良かったこと
 - ○採択のために意識したこと



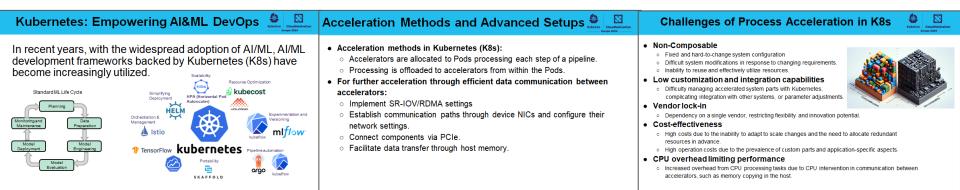
発表概要

Accelerators(FPGA/GPU) Chaining to Efficiently Handle Large AI/ML Workloads in K8s

背景、課題



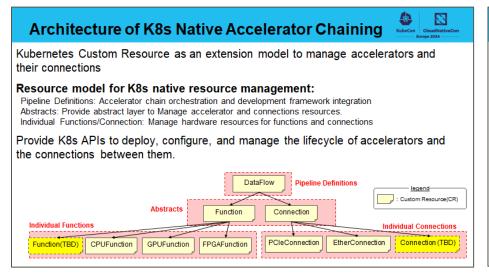
- 背景(やりたいこと): k8s/アクセラレータ(Acc)を活用してAI/MLを高効率・高性能に実施したい
 - k8sがバックエンドで動くAI/MLフレームワークが増えている
 - 大規模なAI/MLワークロードには汎用CPUよりもAccを活用した方が効果的
 - 現状のk8sではAcc活用は限定的(Podと紐づいており、各処理間通信はPod間通信となりCPU介在)
- 課題: 今のk8sではアクセラレータを効果的に活用出来ない
 - 非コンポーザブル:アクセラレータ間の接続及び高速化に必要な設定は手動なので、構成が固定され構成変更は困難。
 - CPUオーバーヘッド:アクセラレータ間で通信を行う際にCPUが介在してホストにおけるメモリコピーなどを行うため

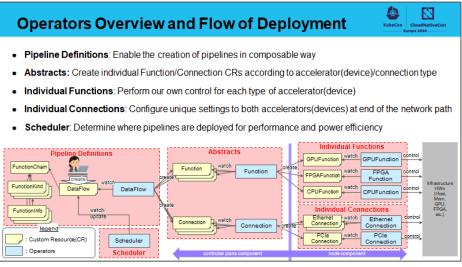


我々のアプローチ:アーキ概要



- 我々のアプローチ: k8sの拡張モデルであるCR(CustomResource)の活用
 - CRを用いてk8sのリソースモデルを拡張することで、AccやAcc間のコネクションをk8s nativeなリソースとして管理
 - リソースモデル: Pipeline Definition, Abstracts, Individual Functions/Connectionsの3層
 - オペレータ:上記3層+スケジューラ

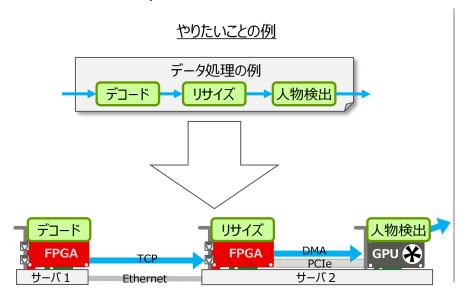




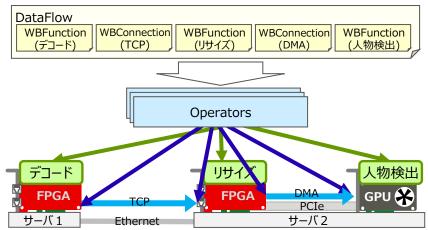
補足:具体例



- 映像解析(人物検出)のパイプラインをDataFlowで定義
 - 各step(デコード, リサイズ, 人物検出)をWBFunction CRとして定義
 - step間の通信手段をWBConnection CRとして定義
- 各CRに対応するOperatorが配備を実施



CRs & Operatorsで実現



デモ

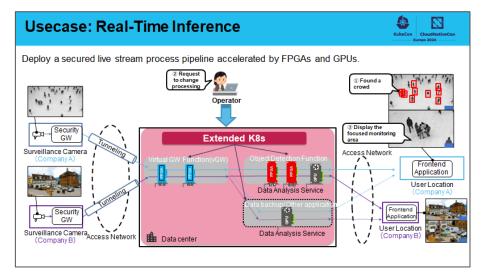


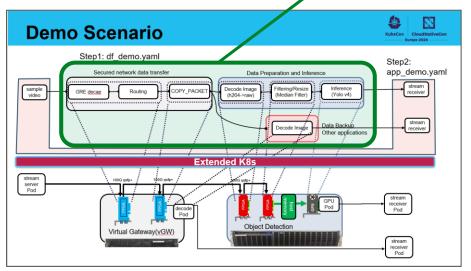
- ○映像解析のパイプラインを"DataFlow"として配備して以下を示した
 - ○"DataFlow"で定義された各種CRが作成される様子を表示」
 - ○実際に映像を流して解析結果(BB付き映像)を表示

DataFlowの処理内容

- セキュアネットワークへの転送処理
- 映像解析処理:

画像のデコード➡フィルタリング&リサイズ➡推論







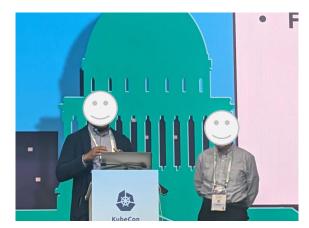
登壇して感じたこと

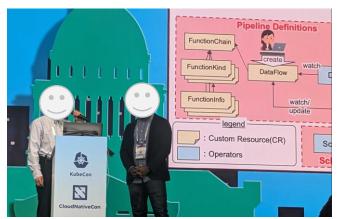
© 2024 Fujitsu Limited

全体所感



- 過去に自身が参加したアカデミックな国際会議や展示会(MWC)とは別種の熱気があり、新鮮な印象
 - プレゼン(セッション)外での参加者同士の技術議論が活発。
 - プレゼンだけでなく、展示会的なエリア(Solutions SHOWCASE:後述)もあり、こちらはお祭り的な雰囲気も感じた
- 自分達の発表に関しても、セッション後に声をかけられることもあった。
 - 今までに無い経験。それだけ興味を持ってくれたのか、KubeConが交流が盛んな文化なのか。
- 普段の業務ではなかなか各プロジェクトの取組みをチェック出来ていなかったので、様々なプロジェクトや取組みを知れる良い機会になった。







KubeConに登壇して良かったこと



- 自分達の取組みを広く(全世界に)広報出来る
 - ○CloudNativeに関する世界最大規模のイベントなので注目度も桁違い
- ○他のWGの方と直接会話が出来る
 - ○我々のプレゼンを聞いてくれていたら話が早い
 - ○どこかのコミュニティに持っていきたい場合などは、プレゼンがきっかけとして受け入れられやすくなる?
- 英語力向上の機会になる
 - ○発表スライドやオーラル作成のためのWriting、質疑応答向けのListening, Speakingなど
 - ○登壇までの間は超短期とはいえ集中トレーニングして対応した
- ○関連するコミュニティに声をかけてもらえた

KubeCon CfP採択のために意識したこと



- トレンドに即したストーリーで考える
 - 今回で言えば、AIに活用するという流れで発表内容を整えていった
 - 実際今回のKubeConはAIをかなり前面に出していて、AI関連のセッションも多かったので、採択につながった一因では無いかと思う

- 何度かトライを続ける
 - 我々の場合は、KubeCon NA 2023にもエントリー申請していて2回目のエントリーで採択された
 - タイミングもあるかと思うが、繰り返しエントリーを続けることも大事かも



